



エシカル消費と アニマル・ウェルフェア

日本女子大学
教授 細川幸一



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

. アニマル・ウェルフェアとは



アニマル・ウェルフェア

- Animal welfareは日本では、「動物福祉」や「家畜福祉」と和訳される。
- しかし、「福祉」が社会保障を指す言葉としても使用されていることから、カタカナで「アニマルウェルフェア」と表記する場合も多い。



意味するもの

- 一般的に人間が動物に対して与える痛みやストレスといった苦痛を最小限に抑えるなどの活動により動物の厚生を実現する考え。
- 多くの動物は人間の利益のために動物本来の特性や行動・寿命などが大きく制限されていることが多い。こうした利用を認めつつも、動物の感じる苦痛の回避・除去などに極力配慮しようとする考え。 ←→動物の権利



対象範囲(1)

愛玩動物

飼育者による動物の不完全な飼養により、飼育動物を無計画に繁殖させ、ときに劣悪な飼育環境を発生させる事例が問題となる。

実験動物

生命科学試験では動物を使用しない方法に置き換え (Replacement)、利用する動物の数を減らし (Reduction)、動物に与える苦痛を少なくする (Refinement) という3Rの原則が促進されている。



対象範囲(2)

展示動物

基本的に動物が寿命を全うする最期まで飼育し続けること(終生飼育)が大原則。また、動物園や水族館などの公の飼育施設では、動物福祉の考え方を取り入れて飼育や展示方法を見直す動きが活発化している。

野生動物

外来種を駆除する場合には可能な限り苦痛を与えない方法で安楽死させること。



対象範囲(3)

家畜動物

本概念は畜産業に多大な影響を与えており、欧米を中心に活動や研究が盛ん。身動きの取れない狭い囲いのなかで飼育することを避け、屠殺においては極力苦しませない方法が実行される。



目 標

- 家畜動物については、1922年に英国の畜産動物ウェルフェア専門委員会が提案した「5つの自由」が国際的に認知されている。
- 飢えおよび渇きからの自由(給餌・給水の確保)
- 不快からの自由(適切な飼育環境の供給)
- 苦痛、損傷、疾病からの自由(予防・診断・治療の適用)
- 正常な行動発現の自由(適切な空間、刺激、仲間の存在)
- 恐怖および苦悩からの自由(適切な取扱い)



2. 家畜福祉と消費者



産業動物と消費者

「産業動物(経済動物)」

- その飼育が、畜シ主の経済行為として行われる動物の総称。ただし呼び方としては、これに対する名称及び存在が愛玩動物(ペット)である。
- 狭義には牛、豚、馬、羊、鶏など、その生産物や労働力が人間にとって有用なものとなる動物たちを指す。広義には人の手によって繁殖を管理され、その商取引によって市場が形成されている動物までを含む。
- 市場で取引される動物(食肉)を購入する消費者の責任は？ → エシカル消費の重要は領域では？



工業化されている畜産

- 人間と動物が共に生きるような牧歌的な畜産からほど遠い現状
- 効率が最優先され、畜産の工業化・工場化が進展←価格競争の激化
- 100グラム50円の鶏肉
- 一個20円もしない卵
- 水より安い牛乳



例1: オスのひよこ = 不良品

- Layer(レイヤー) 採卵鳥
- Broiler(ブロイラー) 肉用鳥

レイヤーは当然、孵化したひよこのうちメスだけを飼育。オスのひよこは不良品として生まれてすぐに殺処分。



例2：麻酔をかけない牛の角切、尻尾切

- 角は危険なので、焼き切る
- 尻尾をふると汚物を飛び散らかすので、切除
- とともに麻酔なし



日本での動き

- 2002年に農業と動物福祉の研究会(JFAWI)発足
OIE(国際獣疫事務局、世界動物保健機関)に参加する国際的NGOとしてICFAW(国際農業動物福祉連合)が結成されることとなり、これに参加する日本のNGOとして発足。
- 畜産技術協会が2011年に「アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針」を策定(農水省の委託事業として作成)



畜産の実態を知らない消費者

- 人間 = 食物連鎖の頂点と言われるが、あまりに無慈悲・残虐という批判。
- それを行わせているのは安い食肉を求める消費者
- スーパーの食肉が生きものであったときに彼らが人間からどのような扱いを受けてきたのかを知る必要がある。

エシカル消費として考慮すべき領域ではないか？

